

令和3年度学校評価自己評価表（評価計画）

A：100%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満

廿日市市立佐方小学校

評価計画				自己評価					学校関係者		改善方策		
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための 具体的方策	評価項目・指標	目標値	分掌	中間 10月	達成度 (10月)	最終 2月	達成度 (2月)	評価		結果と課題の分析	評価コメント
【確かな学力・学び続ける力】 学ぶ喜びにあふれた分かる授業を創造する。	◎学習意欲の向上を図り、基礎・基本の確実な定着を図る。	「ユニバーサルデザインを生かした授業づくり」の校内研修を実施する。	<全国学力・学習状況調査児童質問紙> 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合【市共通項目】	85%以上	教務	87.9%	A				・全国学力・学習状況調査児童質問紙については、目標を達成した。昨年度までの研究教科である外国語科の課題発見・解決学習において、第6学年の児童に育まれた主体性は、各教科の学びにおいてその資質・能力の育成につながったものと捉えている。 ・学力面で課題として見えてきたのは、国語科の思考・判断・表現力の正答率で、現時点では74.4%と目標値を下回った。しかし、「自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができた」ということを肯定的に捉えている児童は85%と目標値を上回っている。これは、今年度からスタートした国語科の授業づくりをはじめ、日々の様々な指導の中で自分の考えをもつこと、そして相手に分かりやすく伝えるために必要な情報は何かを判断し、表現することを意図的に積極的に取り入れてきたことの成果であると捉えている。 ・校内授業研究の指導案には、ユニバーサルデザインの3つの視点を明記し、それに基づく研究協議を行っている。その結果、ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりについての肯定的評価は92%であった。	・授業モデルが統一されており、安心して参観できた。 ・話し合い活動が充実しており、意欲的・協働的な学び合いができてきている。 ・板書や発問も工夫されており、充実した時間の中で授業を受けている佐方小学校の子どもたちは幸せだと感じた。 ・中学校では、自制心・思いやりの気持ちを育てて社会に出て生きていくことを目指す姿としている。今後小学校と中学校のつながりを大切にしたい。 ・第2学年の算数科の九九の練習の支援を今年度も実施してほしい。児童の上達のスピードにはいつも驚かされている。	・自分の考えを相手に分かりやすく伝えることについては、各学年の発達段階に応じて丁寧に、粘り強く続け、児童の変容を捉え、共有したり、励ましたりしながら、一人一人の思考・判断・表現力の資質・能力の向上に努めていきたい。 ・ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりについては、校内授業において、支援の例の具体を提示していくことを通じて、全教職員でさらなる共通理解を図っていききたい。また日々の授業において、チェックシートを活用して自己評価・学年や研究主任、管理職による他者評価を取り入れながら、授業力の向上に努めていきたい。 ・第2、第3学年の九九の支援にほんご応援団に入っていたら、計画的に連携を取りながら進め、低学年のうちにつまずきの解消に努めたい。
			<国語科における思考・判断・表現> ・国語科において、期末テストの「思考、判断、表現」の観点の問題を80%以上正答した児童の割合	80%以上		74.4%	B						
			・児童アンケートで「自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができた」という項目で肯定的評価をした割合【中学校区共通項目】	80%以上		85.0%	A						
			<ユニバーサルデザイン> ・ユニバーサルデザインの考えを生かした授業づくりを行っていると考えた教職員の割合【重点項目】	100%		92.0%	B						
【豊かな心】 自分を大切にし他者を大切に、集団の中で力を発揮させる。	◎「出番」「チャレンジ」「承認」する場を児童に与え、児童の自己有用感を高める。	基本的な生活習慣（挨拶）に取り組む。	<あいさつ> ・教職員・保護者アンケートで「児童は進んであいさつをしています」という項目で肯定的評価をした割合	70%以上	生徒指導	教職員 92.3% 保護者 64.0%	A				・どの項目も目標を上回ることができた。これは、管理職・生徒指導主事・学年主任・学級担任が密に連携して生徒指導を行うことができてきた結果だと捉えている。 ・「児童は進んであいさつをしています」という項目の割合は64.0%、教職員の割合は92.3%であり、保護者の数値と教職員の数値で約30%の差がある。これは、今年度、参観授業や行事が実施できていないことから答えにくいという状況もあってこのような結果になっていると捉えている。 ・自己有用感については、県全体で減少傾向にあるという報告を受けたが、本校の児童においては、良好な状況である。来月の体育参観日に向けて、設定した学年目標のスローガンに対し個人目標や友達の頑張りを認め合うカードや、やり逃げ後の感想カードを掲示することを通じて共感的な人間関係の構築を目指している。	・6年生のあいさつがとても気持ちがよかった。全体につなげていってほしい。 ・教職員と保護者のあいさつの肯定的評価に差があるのは、このご時世において、児童が地域の知らない人にあいさつをしたり、気軽に話したりするということが難しい状況があることも関係しているように感じた。	
			<清掃活動> ・「時間いっぱい丁寧に掃除をしている」と回答した児童の割合【中学校区共通項目】	90%以上		91.0%	A						
			<自己有用感> ・「友達、私のことを分かってくれている」で肯定的評価をした第3学年以上の児童の割合（アセス）	85%以上		96.2%	A						
【保護者・地域との信頼関係の強化】 情報を発信し学校の教育方針を理解してもらい、地域の教育力を学校に生かす。	自ら進んで地域行事等に参加し、地域に親しみを感ずる児童を増やす。	地域素材を生かした学習を各学年で実施し、地域に愛着をもつ児童を育成する。	<ふるさと学習> ・各教科・領域等で、地域に愛着がもてるように単元を構成して授業を実践した学年の割合	100%	生徒指導	92.3%	B				・PTA会長様、前PTA会長様をはじめ、ほんご応援団の皆様・保護者の皆様のお力添えをいただき、子どもたちに豊かな学びを提供することができていることに感謝している。	・児童の心を育てるためには、地域の協力が不可欠である。学校と地域が協働して児童を育てていきたい。	
【体力の向上・健康な体】 すべてのエネルギーの源である健康を保持し体力を向上させる。	日常的に運動を奨励し、基本的な生活習慣の確立を図る。	家庭での規則正しい生活の送り方についての意識の向上に取り組む。	<就寝時刻> ・学期ごとにアウトメディア、睡眠の調査を行い、生活リズムチェック週間の期間中、4日/5日、目標達成できた児童の割合	85%以上	健康教育	88.0%	A				・第1回学校関係者評価委員会でご意見を頂戴し、コロナウイルスについての項目を追加した。 ・就寝時刻と朝ご飯については、ご家庭のご協力のもと、目標値を上回る結果となった。 ・健康チェックカードについては、担任が毎日確認し児童の健康状況の把握に努めている。カード忘れ、検温忘れの児童は自分で気付いて職員玄関で検温し、担任に確実に報告することができている。忘れの児童が固定化している状況は現時点ではない。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、全校児童によるロング昼休憩を中止している。また、熱中症予防のための運動指針に基づき、暑さ指数が危険値を示した時も外遊びを禁止した。更に今年度も新体力テストや水泳指導が中止となり、体力向上を図るために必要な体を動かす機会が非常に少なくなっている状況である。このような状況の中で、大休憩や昼休憩などにしっかりと体を動かしているかについては、37%の児童がしっかりと外遊びをしていると回答をし、だいたいできていると回答した児童を加えても63%にとどまる結果となった。	・新型コロナウイルス感染症防止のため、児童の外で遊ぶ機会が奪われたことが運動能力・体力への弊害につながっていることが報道されている。また、体力的・精神的側面から学校に行きにくい状況があるという事例も少なくない。外遊びの取組については、意識して取り組んでほしい。 ・外遊びについては、大休憩・昼休憩には児童と一緒に運動場でサッカーや鬼ごっこをして遊ぶ担任の姿や全員遊びを企画する児童の姿が増えてきた。全校では、朝の体力アップタイム体操を実施したり、授業においても、運動量が確保された授業づくりを目指していく。また、高学年は委員会活動等で大休憩・昼休憩に遊ぶ時間の確保が難しいという状況もある。質問の内容に工夫をしていく。	
			<朝ごはん> ・毎日、朝食を食べて登校する児童の割合 ・食に関するアンケート結果や生活リズムチェック週間の5日/5日、目標達成できた児童の割合	90%以上		94.0%	A						
			<コロナウイルス感染症対策> ・毎朝計測した体温と体調についてを健康チェックカードに記入し、登校後担任に提出する児童の割合	100%		86.0%	C						
			<外遊び> ・1日1回、外遊びができた児童の割合 「昼休憩などにしっかりと外で遊んでいますか」という項目で肯定的評価をした児童の割合	70%以上		63.0%	B						
【風通しのよい職場づくり】 子どもと向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図り、教職員一人一人が健康で、生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	◎学校における自律的な業務改善・業務削減の推進を図る。	校務分掌の見直しを図る。定時退校日の設定を行い、教師のワーク・ライフバランスの推進を図る。	<子どもと向き合う時間> ・子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合	80%以上	教務 生徒指導 健康教育	88.0%	A				・児童に質の高い教育を提供していくためには、私たち自身が元気で健康でなければならない。児童の目の前で、笑顔あふれる元気な姿を見せ、一人ひとりの児童を大切に、本気で取り組むことができるように、根気強く努力し、子どもや保護者、地域の方々から信頼されることが大切である。 ・「子どもと向き合う時間が確保されている」と肯定的に回答した教職員の割合は、88%で、昨年度よりも向上している。一方で時間外勤務の割合は、昨年度と比べると減少傾向にある。全ての教職員が、勤務時間を意識しながら、業務を行うよう心がけているが、なかなか徹底が難しい状況である。	・佐方小学校では、児童に力を付けようとして一生懸命な先生方が多いために、時間外勤務となってしまうのではないかと感じる。 ・ICT機器の活用により授業準備が軽減に効果的につながるとよい。	
			<効率的な働き方①> ・時間外勤務時間が月平均80時間未満の教職員の割合	100%		94.6%	B						
			<効率的な働き方②> ・時間外勤務時間が月平均45時間未満の教職員の割合	50%以上		41.0%	C						